

特71

888

改正  
刑

塚  
子  
成  
編  
纂

法

附  
刑  
施  
行  
法

田  
中  
宋  
榮  
堂  
發  
行

853  
817

301431-001-9

特71-888

改正刑法

大塚 子成 / 編

M41.8

BBP-0001



特 71

888

塚子成編纂

改正  
刑

法

附

刑  
法  
施  
行  
法

田中宋榮堂發行



4-7/1  
200

改 正 刑 法

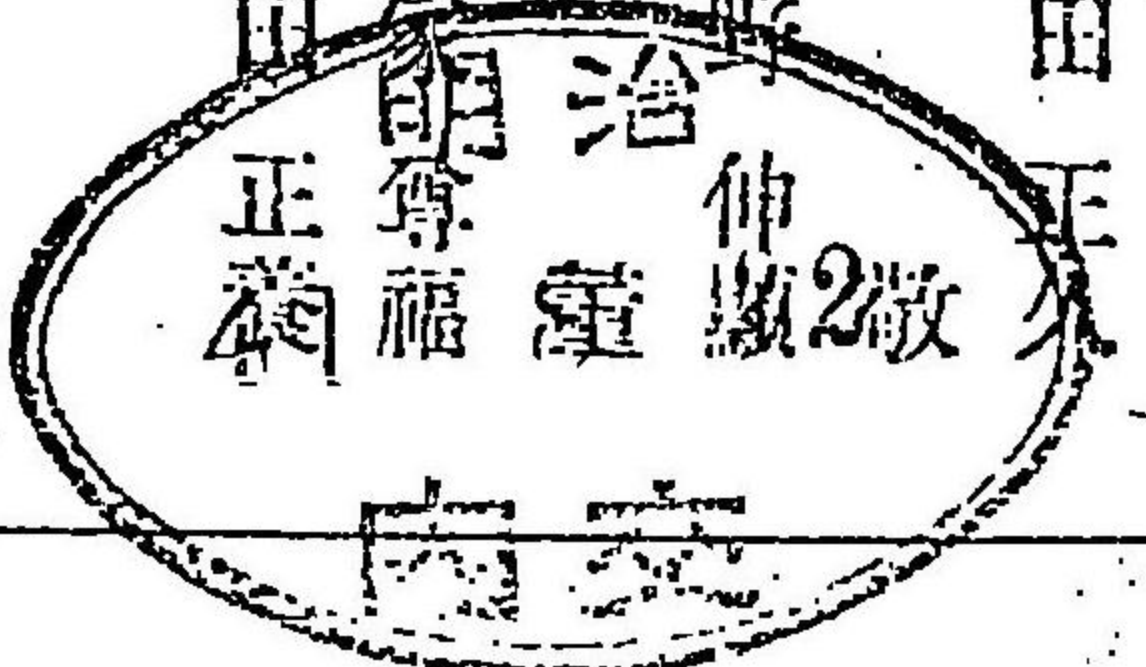
朕刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之  
ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十一年六月二十七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍 大臣 子爵寺内 正毅  
農商務大臣 松岡 康毅  
海軍 大臣 男爵齋藤 實

大藏 大臣 松田 正久  
内務 大臣 原 敬  
文部 大臣 男爵牧野 伸顯  
外務 大臣 伯爵林 董  
司法 大臣 男爵千原 正壽  
遞信 大臣 子爵堀田 正壽  
勅令第六十三號  
刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之  
ヲ施行ス



改 正 刑 法

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十年四月二十三日

内閣總理大臣侯爵 西園寺公望  
 陸軍大臣 寺内正毅  
 農商務大臣 松岡康毅  
 海軍大臣 齋藤 實  
 大藏大臣 阪谷芳郎  
 逓信大臣 博士 山縣伊三郎

司法大臣 松田正久  
 內務大臣 原 敬  
 文部大臣 牧野伸顯  
 外務大臣 子爵林 董

法律第四十五號  
 刑法別冊ノ通之ヲ定ム  
 此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

改 正 刑 法 目 次

改 正 刑 法 目 次

第一編 總則	第一章 法例	一	第十章 累犯	一〇
	第二章 刑	三	第十一章 共犯	一一
	第三章 期間計算	五	第十二章 酌量減輕	一二
	第四章 刑ノ執行猶豫	五	第十三章 加減例	一二
	第五章 假出獄	六	第二編 罪	一三
	第六章 時效	七	第一章 皇室ニ對スル罪	一三
	第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	七	第二章 内亂ニ關スル罪	一四
	第八章 未遂罪	九	第三章 外患ニ關スル罪	一四
	第九章 併合罪	九	第四章 國交ニ關スル罪	一五
			第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪	一六
			第六章 逃走ノ罪	一六
			第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪	一七

改正刑法目次

第八章	騷擾ノ罪	一七	第二十章	偽證ノ罪	二八
第九章	放火及ヒ失火ノ罪	一八	第二十一章	誣告ノ罪	二八
第十章	溢水及ヒ水利ニ關スル罪	二〇	第二十二章	猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪	二九
第十一章	往來ヲ妨害スル罪	二一	第二十三章	賭博及ヒ當籤ニ關スル罪	三〇
第十二章	住居ヲ侵スル罪	二二	第二十四章	禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	三〇
第十三章	秘密ヲ侵スル罪	二三	第二十五章	瀆職ノ罪	三一
第十四章	阿片煙ニ關スル罪	二三	第二十六章	殺人ノ罪	三二
第十五章	飲料水ニ關スル罪	二三	第二十七章	傷害ノ罪	三二
第十六章	通貨偽造ノ罪	二四	第二十八章	過失傷害ノ罪	三三
第十七章	文書偽造ノ罪	二五	第二十九章	墮胎ノ罪	三三
第十八章	有價證券偽造ノ罪	二七	第三十章	遺棄ノ罪	三四
第十九章	印章偽造ノ罪	二七	第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪	三五

改正刑法目次

第三十二章	脅迫ノ罪	三五
第三十三章	略取及ヒ誘拐ノ罪	三五
第三十四章	名譽ニ對スル罪	三六
第三十五章	信用及ヒ業務ニ對スル罪	三七
第三十六章	竊盜及強盜ノ罪	三七
第三十七章	詐欺及ヒ恐喝ノ罪	三八
第三十八章	横領ノ罪	三九
第三十九章	贓物ニ關スル罪	三九
第四十章	毀棄及ヒ隱匿ノ罪	四〇

改正刑法目次 終

改正刑法

(明治四十年四月二十三日)

第一編 總則

第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ

犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ記載

シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四 第四百八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五 第四百五十四條、第四百五十五條、第四百五十

七條、及ヒ第五百五十八條ノ罪

六 第六十二條及ヒ第六十三條ノ罪

七 第六十四條乃至第六十六條ノ罪及ヒ

第六十四條第二項、第六十五條第二

項、第六十六條第二項ノ未遂罪

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪

ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一 第八條、第九條第一項ノ罪、第八

條、第九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可

キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二 第十九條ノ罪

三 第五十九條乃至第六十一條ノ罪

四 第六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂

罪

五 第七十六條乃至第七十九條、第八

十一條及七第百八十四條ノ罪  
 六 第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪  
 七 第二百四條及七第二百五條ノ罪  
 八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪  
 九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪  
 十 第二百二十條及七第二百二十一條ノ罪  
 十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪  
 十二 第二百三十條ノ罪  
 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十二條及七第二百四十三條ノ罪  
 十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五 第二百五十三條ノ罪  
 十六 第二百五十六條第二項ノ罪  
 帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ  
 第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス  
 一 第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪  
 二 第百五十六條ノ罪  
 三 第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪  
 第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ

減輕又ハ免除スルコトヲ得  
 第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス  
 第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ  
 公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ  
 第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス  
 第二章 刑  
 第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス  
 第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但

無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス  
 同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス  
 二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム  
 第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス  
 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス  
 第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ



一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ

一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘留ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合

ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル

場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕ス

ル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未満トシ拘留

場ニ拘留ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未満トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一

日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三

十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六

十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共

ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合

ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テ

ハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サ

レハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納

ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數ト

ノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シ

テ之ヲ留置ス留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ム

ルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ留置

一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコト

ヲ得ス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコ

トヲ得

一 犯罪行為ヲ組成シタル物

二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキ

ニ限ル

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ

特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコト

ヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ

沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部

ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシ

タルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期

ニ算入セス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日

トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役

又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ

裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内

其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトヲ

改 正 刑 法

キ者

二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルル

コトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其効力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者收

一 無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可

キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ  
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時効

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條 時効ハ刑ノ言渡ヲ確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス  
一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セス

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他

改 正 刑 法

人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條

自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ起エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十八條

罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止メ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

罪本重カシクシテ犯ストキ知ラサル者ハ其

重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條

心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條

瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條

十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條

罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條

併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第四十八條

罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條

併合罪中重キ罪ニ沒收ヲシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ没収ハ之ヲ併科ス  
第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未  
タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經  
サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリ  
タルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ  
執行ス可キトキハ没収ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行  
セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ  
罰金科料及ヒ没収ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス  
有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ  
付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモ  
ノニ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或  
罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大  
赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラ  
レタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減  
刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若ク  
ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ  
更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同  
シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲  
役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモ  
ノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ  
處セラレタルモノト看做ス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲  
役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見  
シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併  
科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス  
第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數ノ罪名ニ觸  
レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ  
他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ  
處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ  
適用ス  
第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一  
ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章 累犯  
第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終  
リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更  
ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再

テ定ム  
懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除ア  
リタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規  
定ヲ適用セス  
第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例  
ニ同シ

第十一章 共犯  
第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタ  
ル者ハ皆正犯トス  
第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行シタル者  
ハ正犯ニ準ス  
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ  
第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス  
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス  
第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕

犯トス  
懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラ  
レタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減  
刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若ク  
ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ  
更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同  
シ  
併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲  
役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモ  
ノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ  
處セラレタルモノト看做ス  
第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲  
役ノ長期ノ二倍以下トス  
第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見  
シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑

テ定ム  
懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除ア  
リタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規  
定ヲ適用セス  
第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例  
ニ同シ  
第十一章 共犯  
第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタ  
ル者ハ皆正犯トス  
第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行シタル者  
ハ正犯ニ準ス  
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ  
第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス  
從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス  
第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ  
教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ  
之ヲ罰セス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪  
行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ  
仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナ  
キ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量  
シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル  
場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ  
適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ  
因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除  
棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサ  
ル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲スコキトキ亦第六十  
八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ  
左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又  
ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以  
上ノ懲役若クハ禁錮トス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ  
七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ  
其刑期ノ二分ノ一ヲ減テ

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ  
一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ  
一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ  
一ヲ減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十二條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、  
皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘ  
ントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、  
皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル  
者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦  
同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死  
刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役  
ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者  
ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其  
他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲  
シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處  
斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ詳衆ノ指揮ヲ爲シタル  
者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他  
諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十  
年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者  
ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載  
シタル者ハ此限ニ在ラス  
第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者

ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行  
爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以  
下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動  
ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ  
開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル  
者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用  
ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル  
者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付  
シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦  
船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線、

其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ  
使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死  
刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥  
其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交  
付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國  
ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ  
五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ  
以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍  
事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲

役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載  
シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年  
以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル  
行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大  
統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年  
以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ  
侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但  
外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節

ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命

令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効ダラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキ

ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルト

キハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七條 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪  
第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章 騷擾ノ罪

第百六條

多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
一 二魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條

暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受ケルコト三回以上ニ及ブモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第百八條

火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百九條

火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セズ又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但シ公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セズ

第百十條

火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條

第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百十二條

第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百十三條

第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第百十四條

火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタ

第百十五條

第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第百十六條

火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十七條

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百十七條

火災、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人



ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ前項ノ行為過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

第百十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪  
第百十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住所ニ使用

シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル  
第百二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行為又ハ溢水セシム可キ行為ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ

艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス  
第百二十七條 第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百二十八條 第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船

ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

第三百十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第三百十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第三百十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十四條 醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
第三百十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ

若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
第三百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪

第三百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ、因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ

處斷ス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ

輸入シタル者亦同シ

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第三百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

但一圓以下ニ降スコトヲ得ス  
第三百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造ノ罪

第三百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ捺捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第三百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ

公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第五百五十七條

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ  
權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ  
記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ  
百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又  
ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月  
以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖  
畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若  
クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り  
又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑  
ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
第五百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若

クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明  
ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シ  
タル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、  
義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫  
ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處  
ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル  
權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ  
圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル  
文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二  
年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、  
檢案書又ハ死亡證書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル  
トキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金

ニ處ス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖  
畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若  
クハ變造シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同  
一ノ刑ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官  
府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造  
又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役  
ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲  
シタル者亦同シ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虚偽  
ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使

ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタ  
ル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又  
ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役  
ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造  
シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦  
同シ

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公  
務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月  
以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ  
使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印

章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十八條 第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪

第百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

懲役ニ處ス

第百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章 誣告ノ罪

第百七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

第百七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

トキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

科料ニ處ス

第百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女

ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ヲラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ニ同シ

第百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ヲキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以上ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫  
姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ  
第百八十四條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シ  
タルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタ  
ル者亦同シ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博  
戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又  
ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シ  
タル者ハ此限ニ在ラス

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シ  
タル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リ  
タル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下

ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス  
富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲  
役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス  
前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下  
ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル  
罪

第百八十八條 神祠・佛堂・墓所其他禮拜所ニ  
對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ  
懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處  
ス

誹教・禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以  
下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下

ノ懲役ニ處ス

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置  
シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三  
年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、  
遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、  
遺棄、又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下  
ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタ  
ル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 瀆職ノ罪

第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ  
義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨  
害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處  
ス

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ

又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕  
又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲  
役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ  
又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事  
被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ  
爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處  
ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送  
スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ  
爲シタルトキ亦同シ

第百九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷  
ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ  
處斷ス

第百九十七條

公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ  
賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル  
トキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲  
ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年  
以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收  
ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサ  
ルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條

公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付  
提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ  
三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑  
ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六章

殺人ノ罪

第百九十九條

人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期

若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタ  
ル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條

前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備  
ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀  
ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條

人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシ  
メ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得  
テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役  
又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條

第百九十九條、第二百條及ヒ前條  
ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章

傷害ノ罪

第二百四條

人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以  
下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ

處ス

第二百五條

身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル  
者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル  
トキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條

前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於  
テ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年  
以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ  
處ス

第二百七條

二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害  
シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハ  
ス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能  
ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ  
依ル

第二百八條

暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ

至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓

以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章

過失傷害ノ罪

第二百九條

過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五  
百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二百十條

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條

過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ  
千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條

業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ  
人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ  
千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章

墮胎ノ罪

第二百十二條

懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他  
ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲

役ニ處ス

第二百十三條

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ

得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス  
因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條

醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾

ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷

ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

處斷ス

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條

老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條

前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條

不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル

者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷

ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條

生命、身體、自由、名譽又ハ

財産ニ對シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者

亦同シ

第二百二十三條

生命、身體、自由、名譽若ク

ハ財産ニ對シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナギ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對

シテ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナギ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可權利ヲ妨害シタル者亦同シ

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條

未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條

營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ

以テ人ヲ脅迫シタル者



以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期徒刑ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ隠匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣問ニ出ツルニ

非サレハ之ヲ罰セズ

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期徒刑ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行ハ又脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論フ

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ

無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又無期懲役ニ處ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ關シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條

第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、密藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二百五十七條** 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス  
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

**第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪**

**第二百五十八條** 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處

**第二百五十九條** 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

**第二百六十條** 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

**第二百六十一條** 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

**第二百六十二條** 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

**第二百六十三條** 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

**第二百六十四條** 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

改 正 刑 法 終

刑 法 施 行 法

(明治四十一年三月法律第二十九號)

**第一條** 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ効力ヲ有スルモノヲ謂フ

**第二條** 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

無期懲役	死刑	舊刑法ノ刑
	無期徒刑	死刑

無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁錮、輕禁錮、輕禁錮

罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料

**第三條** 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
 數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
 一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ

又ハ二個以上ノ主刑中其一箇ノ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左

ノ例ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ

累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ

死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪

下刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト

刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付

キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス  
第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ

準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス  
刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス  
第十六條 懲治場留置ヲ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但前法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 關帝判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ懲收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セ

ス  
附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス  
他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノニハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セズ但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セズ刑ノ減輕ノ方

法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節

二 第九十八條乃至第二百條

三 第二編第四章第七節及ヒ第九節

四 第二編第五章第三節

五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一 軍機保護法ニ掲ケタル罪

二 徵兵令ニ掲ケタル罪

三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪

四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪

五 船舶法ニ掲ケタル罪

六 船員法ニ掲ケタル罪

七 船舶職員法ニ掲ケタル罪

八 船舶検査法ニ掲ケタル罪

九 戶籍法ニ掲ケタル罪

十 郵便法ニ掲ケタル罪

十一 舊刑法中印紙ノ偽造、變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 著作權法ニ掲ケタル罪

二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪

三 移民保護法ニ掲ケタル罪

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ

適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス  
 前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス  
**第三十一條** 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス  
**第三十二條** 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
**第三十三條** 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス  
**第三十四條** 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス  
 前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス  
**第三十五條** 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス  
 六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス  
**第三十六條** 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラ

レタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス  
**第三十七條** 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケザリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス  
**第三十八條** 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム  
 第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スル  
 ニ因テ完成ス  
 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年  
 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年  
 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年  
 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年  
 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月  
**第三十九條** 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム  
 第三 區裁判所ノ管轄ニ關スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ  
**第四十條** 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム  
 第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者

及ヒ宗教若クハ禮祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第二百六條第一項中「刑法第八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第二百三十八條中「刑法第七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム  
同法第二百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第七十二條 檢察ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ犯罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左

ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス  
死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ



各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ  
 刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得  
 一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ  
 二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル  
 虞アルトキ  
 三 受胎後七月以上ナルトキ  
 四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ  
**第五十條** 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ  
 爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦  
 同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
 前項ノ懲收ニ付テハ非訟事件手續法第二百  
 八條ノ規定ヲ準用ス  
**第五十一條** 刑事訴訟法第二十四條、第六十三  
 條、第六十八條、第七十三條及ヒ第七十  
 四條但書ハ之ヲ削ル

**第五十二條** 刑事訴訟法中復讐及ヒ特赦ニ關ス  
 ル規定ハ之ヲ削ル  
**第五十三條** 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ  
 規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪  
 事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢  
 事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ  
 前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又  
 ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決  
 定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得  
**第五十四條** 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事  
 ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡下同時  
 ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ  
**第五十五條** 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ  
 其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ  
 破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコト  
 ヲ得  
**第五十六條** 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ  
 場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地  
 又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢  
 事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ  
 前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又  
 ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決  
 定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得  
**第五十七條** 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗  
 告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス  
**第五十八條** 明治三十八年法律第七十號ニ依リ  
 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ  
 經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言  
 渡ヲ受ケタルモノト看做ス

**第五十九條** 明治三十九年法律第五十四號ハ之  
 ヲ廢止ス  
**第六十條** 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事  
 訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ  
 爲スコトヲ得  
**第六十一條** 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者  
 ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲スコ  
 シ  
**第六十二條** 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ  
 關スル訴訟費用トス  
 一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑  
 定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及  
 ヒ止宿料  
 二 第六十六條ニ記載シタル費用  
**第六十三條** 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左

ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セズ

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス  
前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨ

リ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セズ  
第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セズ

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

附 則  
本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年八月十五日印刷  
明治四十一年八月二十日發行

編纂者 大塚子成

發行者 大阪市南區安堂寺橋通四丁目二四二番邸 田中 太右衛門

印刷者 大阪市南區安堂寺橋通二丁目二六番邸 山田 元吉

發兌元 大阪市南區心齋橋通安堂寺町南入 田中 宋榮堂



253

817

帝國憲法

郵送價料金四錢

裁判所構成法

郵送價料金四錢

改正民法

郵送價料金二十錢

民事訴訟法

郵送價料金二十錢

改正商法

郵送價料金二十錢

改正刑法

郵送價料金二十五錢

刑事訴訟法

郵送價料金二十五錢

市制町村制

郵送價料金八錢

帝國六法全書

郵送價料金三十五錢

改正民法講義

小包料金十二錢

民事訴訟講義

小包料金十五錢

改正商法正解

郵送價料金三十錢

改正刑法講義

小包料金八十錢

市町村制正解

郵送價料金六錢